

### 今回は回る11回

ずいぶん前ですが、栃木県のお寺へお邪魔した際、本堂の前に円形の石畳があるのに気付きました。ご住職に伺うと、その石畳の上を葬列がぐるっとまわるのだという。

そういえば、葬列がぐるぐる廻ることは各地の民俗誌を開いてみると、決して珍しいことではない。試しに『総和町史 民俗編』を開いてみると、出棺の際「家中でお棺を拝んで、その後トコトリがお棺を担いでザシキのエンガワから二ワに出て時計と逆回り(左回り)に三回半まわった」とある。ああ、やっぱりまわるんだ。各地の民俗を調べてみると、とりわけ葬儀のときには、左回りにまわることが多く、普段とは違った意識でまわる方向は左としているようです。そこで思い出したのが「辻ぐり」の数珠まわし。

辻ぐりを見に  
昨年3月「辻ぐり」をやると

伺ったので、下尾崎田園都市センターへ出かけてみた。数メートルもの大きな数珠(かつてはズズと呼んでいたようです)を、鉦と太鼓に合わせて、大人数でまわす。かつては悪疫退散、悪いモノが入ってこないようにと、ムラ境となる数力所の辻でこれを行っていましたが、近年は、集落センターでまわすようになったのだと言えます。数珠をズズと呼んでいたことから、ズズ(数珠)を繰ることでもツジグリというようになったのかも知れませんが、辻も固めてお



▲辻ぐり(下尾崎一 下尾崎田園都市センター)

かねばならない大切な場所。ズズグリのなか、ツジグリのなか…どっちもアリのような。

さて、その辻ぐりですが、鉦と太鼓、回した数を数える人、それに大きな数珠をまわす人を合わせて15人ほどで行います。数珠を収めている箱に「百万回」と墨で書かれています。以前は日が暮れるまで集落の端々を廻ってまわっていたのでしょうか。地域によつてはこれを「百万遍」、あるいは唱え言から「ナンマイダンボ」と呼んでいる所もあります。

### 左回りって

ところでそのまわし方に注目してみると、左回り。時計の針を見慣れてしまっているせいか、私たちはその反対に回転するものを「反時計回り」とか「逆回り」なんて特別感をもって呼んでしまいがちです。そんな普段とは違う「逆」「さかさま」に言い知れぬ靈力を感じ、悪霊や悪疫を防ごうとしていたのでしょうか。宮城県のある所では、夜中にそーっと便所

に行つて、左回りに3回まわる。そこで「こんばんは」って言う。「はい」という返事が返ってくるのだという。それは便所の神様の声。この声を聞くと怖いものが無くなるという。

便所はあちらとこちらの世界の接点で、ここで左に3回まわるのは、あちら側の世界の声を聞く、いわばあの世との交信をするための作法なのかもしれません。辻で左回りに数珠をまわすのも、あちら側の世界の力をもって、防衛にパワーアップを図ったものといえましょう。

さて、夜中にトイレも近くなったお年頃でもあるし、試しにアタクシも、左に3回まわってみようか。家族に気付かれないように。そんなおかしな姿を見られると、その時点で宇宙と交信していると思われかねないし、言い訳したところで「何が怖い」と詰問されても困るので。

古河歴史博物館学芸員 立石尚之

## 図書館の本棚から

### 【一般書】

〈自分〉を知りたい君たちへ  
養老孟司 著  
希望は自分の中にある。自然の不思議、社会のゆくえ、人生の真実など、養老孟司が本をひらいて考えた、いまを生きる人びとへのメッセージが詰まった読書ガイド。

出版社…毎日新聞出版

### 【児童/絵本】

大ピンチずかん  
鈴木のりたけ 作  
鈴木のりたけ 作  
ガムを飲んだ！ トイレの紙がない!? こどもが会う世の中のさまざまな「大ピンチ」を、大ピンチレベルの大きさと、5段階のなりやすさで分類。レベルの小さいものから順番に掲載し、その対処法をユーモアたっぷりに紹介する。

出版社…小学館



古河図書館

### 【一般書/小説】

タイムマシンに乗れないぼくたち  
寺地はるな 著  
一人ぼっちのつもりだった。だけど、そうじゃなかった…。人知れず抱えている居心地の悪さや寂しさ。そんな感情に寄り添い、ふと心が軽くなる瞬間を鮮やかに描き取った短編7編を収録する。

出版社…文藝春秋

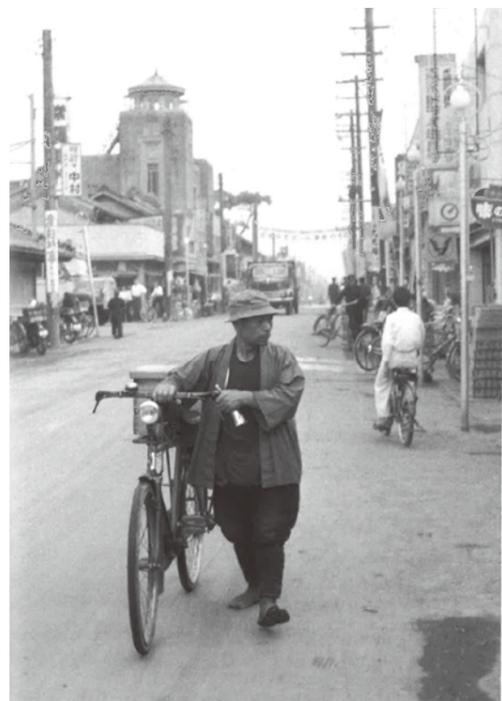
### 【児童書】

クーちゃんときんがみちゃん  
北川佳奈 作  
カカオの町にくらす、板チョコのクーちゃんと仲良しのきんがみちゃん。春は散歩と贈り物、夏は海水浴、秋は落ち葉を踏みしめて踊り、冬はがらがらを引きに商店街へ…。ふたりのとろけるような楽しい毎日のお話。

出版社…岩崎書店



## ファインダー越しの昭和時代



豆腐屋さん  
昭和32年夏

ラッパを吹きながら旧日光街道を自転車で引き売りする豆腐屋さん。手作り豆腐の出来たての味はやはり格別です。奥には昔の警察署のドームも見えます。

古河市在住写真家  
鈴木路雄さん

